

演題：“ラグビー競技における外傷の特徴と医療サポート体制の現状
ーラグビーワールドカップ2019 日本開催へ向けてー”

順天堂大学整形外科・スポーツ診療科
高澤祐治

要旨：

外傷発生率の高いラグビー競技において、ワールドラグビー（旧 IRB）が現場のメディカルスタッフに求めるグローバルスタンダードは、大きな変革期を迎えている。ラグビーワールドカップ 2015 英国大会では、脳震盪に関するレギュレーションをはじめ、競技を安全に運営するための様々な試みが行なわれた。また、歴史的快挙に終わった大会の裏で、ラグビーの母国である英国における入念な準備と、高いホスピタリティーを垣間見ることができた。本講演では、ワールドラグビーにおけるメディカル関連の最近の動向、ラグビーワールドカップ 2015 における現地の医療サポート、そして 2019 日本開催に向けての課題などについて紹介したい。

演題：学校における運動器検診の現状と課題

島根大学医学部整形外科学教授
内尾祐司

【抄録】

平成 26 年 4 月 30 日に「学校保健安全法施行規則の一部を改正する省令」が公布され、平成 28 年 4 月から学校における児童生徒等の健康診断では、「四肢の形態及び発育並びに運動器の機能の状態に注意すること」が必須となる。学校保健安全法施行規則の改正の背景には、成長期の健康上の問題の変化や医療技術の進歩、地域における保健医療の状況の変化などがあるとされる。成長期における運動器疾患・障害は日常生活動作(ADL)や運動・スポーツに影響を与えるのみならず、成・壮年期の ADL や就労にも影響し、ひいては中高齢年期のロコモティブシンドロームや運動器不全症を招来する危険性を孕んでいる。次代を担う児童生徒等の健全な運動器の成長・発達のために、学校における運動器検診体制を確立し、充実させていかなければならない。本講演では学校における児童生徒等の運動器疾患・障害の現状と運動器検診における課題を述べ、課題克服のための方策について考察する。